

《症例報告》

甲状腺乳頭癌脳転移の7症例

池窪 勝治* 日野 恵* 伊藤 秀臣* 平尾 和之**
上嶋 美帆** 田中 智洋** 小林 宏正** 石原 隆**
倉八 博之**

要旨 甲状腺分化癌転移 153 例中脳転移 7 症例 (4.6%) を経験した。いずれも乳頭癌で男性 4 例，女性 3 例で年齢は 47～76 歳 (平均 63 歳) であった。1 例は脳単独転移例であり，他の 6 例は肺への転移を伴っていた。¹³¹I 治療を 5 例で施行し，3 例は脳転移巣への ¹³¹I 集積陽性，2 例は陰性であった。¹³¹I 集積陽性の 3 例中 1 例は肺転移巣には ¹³¹I は集積せず脳転移巣のみに集積した。脳単独転移例は治療により増悪した。他の 1 例は治療直後脳出血をきたした。¹³¹I 陰性の 1 例は γ ナイフ治療により脳転移巣が癒痕化した。一方，¹³¹I 非治療の肺・脳転移の 2 例中 1 例では α -ナイフ治療が有効であった。他の 1 例に対しては外照射・化学療法を行った。7 例中 5 例は死亡。死亡原因は 3 例が脳血管障害，2 例が呼吸不全によるもので，脳転移から死亡までの期間は 1～72 か月 (平均 30 か月) であった。脳は肺・骨に次ぐ甲状腺分化癌の遠隔転移臓器であり，脳転移は予後に大きく影響するため画像診断およびサイログロブリン (Tg) 測定により早期に診断・治療することが重要である。

(核医学 37: 349–357, 2000)